



あさひ13号

2019年(令和1年)

8月31日発行

福山市立旭小学校長

池田 恭子

道徳学びづくり案について

○資料選択の意図（この日にこの資料で学習するわけ）

- ・あとの懇談会で、クラス実態を元に説明をする。

○学びづくりの視点

- ・教材を教えるのではなく、教材を通して価値を考えさせる。
- ・読み取り学習にしない。
- ・発問は一つでもOK。いかに意見を引き出し、揺さぶり、考えさせていくか。
ここに学び合いがある
- ・子どもの心の中に「？」（なぜだろうと考えたくなる）のうかぶ発問を。
- ・切り返しや揺さぶり発問を考えておく。
- ・子どもたちが、自ら考える場面を。（一人、ペア、グループ）
- ・教師は、ファシリテーターの役割を自覚する。

○プラス思考で

- ・「～できなかった時どう思いましたか？」ではなく、できた時どうだったかを聞く。
- ・価値についても「不〇〇は、～な気持ちになる」ではなく、「〇〇は、～である。〇〇に生活することの大切さを学んだ。」と考えさせたい。

○1 時間の学習での深まり

- ・導入で考えていたことが、終末ではどう変わったのか
- ・導入が授業の中で生かされるようにしたい。また、導入と同じ発言が出るようなら、この1時間の深まりはなかったことになる。
- ・心情理解で終わらせない。（主人公は～な気持ちになった。つまり、本当に友だちのことを考えるとは、～ということだ。）
心情理解 価値理解

○評価の観点を明確に

- ・1時間で一つ（？）
- ・あるいは、価値に関しての学び（真の友情とは～であると考えた等）と学び方（多様に考えられたか、自己の生き方とつなげて考えられたか等）の両面で

本校の目指す資質・能力

課題発見・解決力 コミュニケーション力 やりぬく力 思いやり